

授業科目名・形態	精神保健福祉援助演習Ⅰ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	林宏二・山田克宏・古川博文・石岡和志	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

本講は、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、ロールプレイや事例検討を通して実践的に習得するとともに、他の科目との関連性も視野に入れつつ、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

個別演習を通じて精神保健福祉士の相談援助に求められる基礎的知識と技術・技能を具体的な課題別に適用し、また、グループ演習を通じて専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

【授業計画・内容】

具体的な課題別に、それぞれの事例や場面を材料に精神保健福祉課題を理解した上で、面接・アウトリーチ・ケアマネジメント・チームアプローチなどの具体的技術とアプローチを総合的・包括的に用いて、課題解決のための支援をすることができる実践力を養う授業内容である。特に、医療と協働・連携する相談援助事例を体系的に取り上げる。

- 第1回 オリエンテーション：精神科ソーシャルワークにおける事例とは何か、事例検討（演習）の進め方
- 第2回 ソーシャルワークのプロセス①：出会いからプランニングまで「インテーク・契約」
〔アウトリーチなどを含む〕（ロールプレイなど）
- 第3回 ソーシャルワークのプロセス②：出会いからプランニングまで「アセスメント・プランニング」
〔チームアプローチ、ケアマネジメントなどを含む〕（ロールプレイなど）
- 第4回 ソーシャルワークのプロセス③：支援の実施から終結まで「支援の実施・モニタリング」
〔社会資源の活用・調整・開発などを含む〕
- 第5回 ソーシャルワークのプロセス④：支援の実施から終結まで「効果測定と支援の評価・終結とアフターケア」
〔ネットワーキングなどを含む〕
- 第6回 支援課題別相談援助の理解①：医療に結びつける援助
- 第7回 支援課題別相談援助の理解②：地域移行支援
- 第8回 支援課題別相談援助の理解③：地域定着支援
- 第9回 支援課題別相談援助の理解④：医療観察法
- 第10回 支援課題別相談援助の理解⑤：権利擁護
- 第11回 支援課題別相談援助の理解⑥：就労支援
- 第12回 支援課題別相談援助の理解⑦：障害年金の活用，貧困，低所得など
- 第13回 支援課題別相談援助の理解⑧：セルフヘルプグループ
- 第14回 支援課題別相談援助の理解⑨：ピアサポート
- 第15回 まとめ

【授業実施方法】

基本的には個人演習・グループ演習とする（必要に応じて講義形式を取り入れる）。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる精神障害者をはじめとする障害者の抱える問題に関心を持ち、それらの問題とソーシャルワーク実践との関係について確認すること。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導，精神保健福祉援助実習，精神科ソーシャルワーク論，精神科リハビリテーション学Ⅰ・Ⅱ，精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ，地域福祉論Ⅰ・Ⅱ，福祉行財政と福祉計画

【教科書等】

日本精神保健福祉士養成校協会編：精神保健福祉援助演習〔基礎・専門〕（第2版），中央法規出版，2016。

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（ワークシートなど）70%，グループ演習などへの参加状況30%，60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は福祉施設でソーシャルワーカー（社会福祉士7年・精神保健福祉士6年）として、利用者、その家族、支援者等への相談業務を経験している。授業を通して社会福祉学の基本知識だけでなく、実務経験から得たソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値を統合する能力についても高めていきたい。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士としての課題は、精神障害者の生活問題に対応するために、社会的復権と人権擁護の役割を担い、社会復帰を妨げているといわれる障壁を取り除き、地域社会の体制を整えることが挙げられる。利用者との「かかわり」を大事にする専門職の実践への準備ととらえて演習に臨んでください。